

第三百三十七回 青葉会

平成二十六年四月二十四日(木)

午後六時〜九時

丸紅来客食堂(談話室)

〈選者〉 ☆ 川合万里子 先生

〈出席者〉 伊賀山そらお 今井紀久男 大林猛 小川恭延 柿崎忠彦 久米五郎太 後藤保明 中野一灯

山崎亜也

〈投句〉 小西弘子 小早健介 朱牟田恵洲 土谷堂哉 福島正明 古田昇 宮内規雄 山内天牛

渡邊盛雄

〈紙上選句〉 赤田堅 川口孤舟 庄司龍平 高橋敏郎 豊田ゆたか 早川允章 福島正明 星田啓子

村田くに子 山崎青史 山本三恵

兼題『八重桜』『遍路』『草餅』含む当季雑詠五句。投句二句

〈選者吟〉 母校から色んな球音夕長し 万里子 (そ・紀・龍)

早世の父の郷(こゝ)から遍路始め 全 (忠・ゆ)

手作りの草餅美味し祖母ゆづり 全 (恭・保)

内濠にジョガー乗り降り花筏 全 (五)

ジョガーらの次々と着く八重桜 全

《互選句》

六点 花菰や三味の師匠の住まひ跡 忠彦 (紀・五・灯・允・啓・三)

☆ 駐在の迷子宥むるしやぼん玉 昇 (万・孤・灯・正・青・三)

(正↓中七「迷子を宥む」では?)

五点 ☆ 花は葉に舞ひ手のをらぬ道成寺 紀久男 (万・五・敏・正・啓)

(福助の休演長びき、歌右衛門襲名の舞踊「娘道成寺」は当分出番なし)

☆ 農家出の母に供養の蓬餅 忠彦 (万・そ・猛・ゆ・灯)

天城嶺の水ほとばしる山葵沢 一灯 (孤・敏・ゆ・允・く)

琴の音の洩るる裏木戸八重桜 全 (堅・そ・猛・允・啓)

四点 ☆ 線香の煙の中を花の散る さらお (万・堅・忠・く)

新緑や白木清(ささ)けき社(やし)見ゆ 全 (猛・保・敏・灯)

(伊勢神宮)

人はみな元はアフリカ春の闇 五郎太 (恭・正・啓・青)

(青:そのアフリカがいつまでも闇)

☆ 目借時(めかりとき)作句進まず杯重ね 保明 (万・そ・く・青)

星となり絵文字ともなる花筏 健介 (孤・五・ゆ・灯)

☆ 野仏に鳴るアルプスの雪解水(安曇野) 一灯 (万・孤・ゆ・く)

白衣(びやくゑ)着け心定まる遍路かな 亜也 (堅・猛・孤・允)

春風駘蕩ねむりしままの左脳かな 盛雄 (紀・猛・孤・敏)

三点 ☆ 山里の古寺をかざりて八重桜 さらお (万・堅・忠)

(☆↓中七「古寺の華やぎ」)

☆ 山笑ふ戻れぬ村の里山も 忠彦 (万・恭・龍)

舟山も姿おぼろに京穀雨 保明 (五・敏・亜)

春宵やタラツプ軽く大統領 弘子 (五・正・く)

柔らかな雨に滲むや春灯 恵洲 (龍・敏・允)

☆ 花冷や再入院とEメール 堂哉 (万・そ・允)

☆ 老が老押す晩鐘の遍路寺 一灯 (万・紀・忠)

蝦夷霞む風の岬や海難碑 全 (ゆ・く・亜)

長旅に耐へしいのちや初つばめ 盛雄 (堅・恭・保)

二点 ☆ 入学式子らの視線は母を追ひ さらお (万・猛)

(☆↓上五「入園式」の方が句に合っている)

花散れど姿正しき法隆寺
行く春や八十路の峠越え行かん
殿(しんがり)の務め果せり八重桜
☆ 國の為散る世再び花吹雪

沖を向く裸婦像ふつくら花だいこん
(下五↓「花だいこん」にしたら?)

闘ふとも見えで春鬪果てにけり
八重桜人の命の重くして
善良な嘘と知るべし四月馬鹿
草餅買ひ若き女将と長話し

一点

酒うまし今宵青饅(あせぬ)妻褒めて

そらお (正・三)
恭延 (そ・亜)
全 (堅・保)
忠彦 (万・青)
弘子 (忠・青)
恵洲 (龍・正)
正明 (紀・三)
昇 (啓・亜)
天牛 (紀・灯)
紀久男 (恭)
猛 (龍)
全 (龍)
全 (龍)
全 (龍)
五郎太 (亜)
全 (三)
保明 (忠)
全 (垂)
全 (紀)
健介 (恭)
堂哉 (保)
規雄 (保)
亜也 (啓)
全 (三)
天牛 (紀)

念ずれば花ひらくてふ春の寺
見上げて花また花で空見えず
ゴンドラや桜も人もわしづかみ
八重桜重たげな胸揺らぎをり
石楠花の大輪一つ伽羅添えし
草餅の香り薄れし喜寿間近
花筏オブジェのように形変え
残桜や疎林の草色映え立たせ
水底の若き御魂ら花散りぬ
四人組スコア扱(さこ)置き花談義
山鳩の声を聞きつつ朝寝かな
燕の巢軒貸す主(ぬし)はブランジェリ
大きさに善き心出づ蓬餅
鍾馗面(しょうきづら)の男もマスク花粉症

● 次回青葉会

五月二十二日(木) 午後六時〜九時 (丸紅 談話室)

▲ 兼題「花菖蒲」「鯉」一句以上含む当季雑詠五句 投句二句
六月九日(月) 川越吟行・・・参加希望者は御連絡下さい

以上 文責 紀久男

平成二十六年四月句会報

一 今回は先生以下10名出席。投句9名。常連の天牛さん、ゆたかさん、正明さん、弘子さんが欠席で一寸淋しい句会でしたが、いつもの寄贈・・・先生のちび鯛焼(茂蔵)・煎餅「はりま焼」(豊岡)・「武蔵本陣焼」、保明さんの「剣菱」、小生の「越乃寒梅」、そして忠彦さんの「人氣一」純米吟醸(二本松)と甘辛の逸品を賞味しつつ結構盛り上がりました。韓国の旅客船「セウオル号」沈没事故等を話題にし乍ら、ヴェテランの猛さんの披露で、御覧のように忠彦さん、昇さん、一灯さん、そらおさんが高得点でした。

二 関係者近詠

敗戦の年の豪雪空襲下 万里子 病室の窓辺より春きざしをり 規雄
投稿の中に絶筆一月尽 全 身の幸や今年も花の真つ盛り |「NHK俳句」五月号 鈴木章和選
まぢまぢに出掛ける朝の大根汁 眞希子 用水を埋め尽して花筏 万里子
嬰のものを日々手洗ひや石菫の花 全

